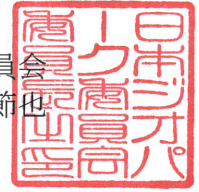


2022年12月12日

南紀熊野ジオパーク推進協議会  
会長 仁坂 吉伸 様

日本ジオパーク委員会  
委員長 中田 節也



### 第46回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2022年9月28日に行われた第46回日本ジオパーク委員会において、申請のあったユネスコ世界ジオパーク候補地推薦に関して貴地域は見送りとなりました。なお、日本ジオパークとしてはこの先4年間の認定とします。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

#### 【総評】

南紀熊野ジオパークは、中生代から新生代にかけて形成された付加体、その上部に発達した新第三紀の前弧海盆堆積体、さらには、それらを一貫するマグマ活動によって巨大なカルデラが形成され、その内部構造が露出しているなど、地質学的な国際的価値は十分に高いと思われる。また、南海トラフで発生する地震や津波については、本地域や海域において、最新の研究が蓄積されてきている。これらの成果と最近の土砂災害の体験が防災教育に活用されている。世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を中心とした観光やガイド事業が展開されてきており、ジオパークへの集客が期待できるという強い利点がある。

一方で、前回の再審査で指摘された指摘事項には、まだ改善途中のものが少なからず見受けられ、特に、地質学的な遺産と熊野古道を中心とした文化遺産との間には、両者の特徴を連携させた相乗的な活用がまだ不十分であり、また、ジオパークセンターを拠点とした地域に根差す管理運営を進めることの必要性など、さらなる改善が求められる。

#### 【優れている点】

- ・ジオパークセンターが潮岬に完成し、ダイナミックな展示の提供に加え、事務局機能が一部移転しているほか、ガイドが館内案内やツアーの受付を行っており、ジオパークの活動拠点となりつつある。
- ・JR西日本からの出向者が事務局に在籍し、エリア外のJR大阪駅などの複数駅構内でのPRや観光列車を利用した企画旅行に成功している。
- ・和歌山大学や海洋研究開発機構（JAMSTEC）などの研究機関だけでなく、推進事業者の制度のもとに団体や個人との連携が進み可視性向上やネットワーク作りに結びついている。
- ・筏下りなど魅力あるツアーが実施されており、地形地質と上手く連携させて商品化できればさらに地域の価値が高められる活動として展開できる可能性がある。
- ・橋杭岩ツアーで津波石が紹介されており、南海トラフの地震発生に関する津波の最新研究の成果が観光事業に反映されている。
- ・高校生の防災や環境問題に関する取り組みとして、女性へのAED使用をしやすいシートを開発して地元市町等に提供したことや、海岸の海洋ゴミの調査を実施し、自分たちのできることを国際集会で発表するなどのプログラムが実施されており、若い世代のジオパーク活動への参加が増えた。

#### 【今後の課題・改善すべき点】

- I 緊急に着手しないし解決すべき課題（おおむね1年以内）
1. 領域マップが国立公園の境界などと混ざり合っていて分かりにくいので、それぞれの領域を異なる色の境界線にするなど工夫し明確に示したマップを用意すること。

2. 地質学的価値についてガイドが自分の言葉で説明できるよう、研究成果をわかりやすく噛み砕いて訪問者に理解してもらう工夫が必要である。本地域の特徴を、西隣の室戸ユネスコ世界ジオパークや日本や世界のジオパーク地域と比較し、このエリアが地球の中でどのような特徴を有するのかについてもガイドが自信を持ってきちんと解説できるよう改善することが好ましい。

## II できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

3. 解説看板の一部には、まだ分かりにくい説明や露頭情報が記載されているため、観光客に分かりやすい内容に充実を図る必要がある。
4. 案内において、説明が熊野古道に偏っており地質地形と文化とのつながりを十分に伝えられていないため、改善の必要がある。筏下りや川舟下りなどにおいても、目の前に広がる景観や岩肌について地球科学的な説明が追加されることに期待したい。これに関し、ガイド養成講座が対応したものになっているかどうかを確認し、テキストの見直しも含め早急に検討してほしい。また、より魅力的なガイドとするため、ジオパーク認定ガイド団体が実施するツアーについては、既存の市場調査や新たに実施する市場調査の結果を活用し、観光客の要望に応え、ジオパークの理念が感じられる内容のツアーに作り上げるよう期待する。
5. ジオパークエリア内にある世界遺産関連施設、串本海中公園センターや南方熊楠記念館等の施設と今後どのように連携し、どのような相乗効果を生み出せるか、連携の目的及び具体的な活動を検討する必要がある。また、推進事業者とも、具体的な役割分担を確認するパートナーシップ協定を取り交わすことが好ましい。
6. 準備中の地質学的サイトの保全計画とマーケティング戦略の作成を早急に進めることが求められる。

## III 中長期的に解決すべき事項

7. エリア内にある事務局がジオパーク活動を主導する事が基本であるので、エリア外の和歌山市にある事務局が全体の運営を行っている状況を改善されたい。また、ジオパークセンターを拠点とし、エリア内の市町村との連携・協働をさらに進める必要がある。
8. 世界審査に当たっては、構成自治体である十津川村の住民参加が具体的に見える形にすることが求められるので、十津川村との連携を工夫してほしい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上